

教員名	の だ たけひと 野田 岳仁
専門分野	環境社会学・地域社会学・観光社会学
ゼミのテーマ	現場に暮らす生活者の立場からの地域づくり・地域ツーリズムの探究
ゼミの内容	<p>野田ゼミは 2019 年度からはじまった新しいゼミです。伝統はありませんが、その分、ともにつくりあげる“楽しみ”や“よろこび”のあふれるゼミにしていきたいと思います。</p> <p>こんにちの地域づくりや地域ツーリズム政策を考える際には、地域住民の参画や協働が必要不可欠となっています。<u>地域社会にかかわる政策が住民の納得や満足が得られなければ、政策の有効性を失ってしまうことを行政担当者は痛感しているからです。</u>けれども、実際に住民の納得や満足を得ることは想像以上に難しいものです。住民は意見をコロコロ変えたり、一転して非協力的な態度をみせるためです。ではどうすればよいのでしょうか。</p> <p>私が専門とする環境社会学では現場の要請に次のように応答してきました。すなわち、住民や地域社会の考えを理解するには、現場に暮らす人びとの立場に立って、住民の価値観を分析することが不可欠であると。環境社会学は現場に飛び込んで、地域住民の意思決定のしくみを分析したり、その意思決定に関与する地域の社会組織の機能を明らかにすることで、住民の価値観や地域社会の論理を把握する独自の方法論を深化させてきました。それは“生活環境主義”という方法です。</p> <p>野田ゼミでは、“生活環境主義”という方法論を用いて、住民が意見をコロコロ変える理由や、一転して非協力的な態度をみせる<u>地域社会の論理を理解したうえで、地域社会が受容可能な地域づくりや地域ツーリズム政策とはどのようなものであるのかを検討</u>していきます。そのうえで、地域住民の納得や満足を得るために、現場の人びとや地域社会にとっての“しあわせ＝ウェルビーイング”とはどのようなものなのかを現場の人びとの実践に学びながら、ともに考えていきたいと思います。</p> <p>野田ゼミでは、現場に暮らす人びとの立場から有効性のある地域政策を考えることを旗印としていますので、フィールドワークをもっとも重視し、大切にしています。フィールドは、いつも驚きや感動の連続で、自己を成長させてくれる場所です。みなさんがよいフィールドワーカーに成長できるように、徹底した“フィールドワークの技法”と現場での驚きや感動を学問的な表現に磨き上げるための“論理力”を鍛える指導を行います。2020 年度は、地域の湧き水や洗い場を観光資源に活用した“アクアツーリズム”という新しい観光実践を取り上げ、各地を訪れる予定です。</p> <p>フィールドに調査にでかけて地元の人びとの言葉に耳を傾けていると、それまでの常識や自分の考えが揺さぶられる瞬間に出会うことがあります。そのときに、思い切って常識や自分の考えを捨てる勇氣を持って下さい。自分の考えを相対化して、現場の人たちの立場に立つことではじめて見えてくる景色があるからです。そこから見えてくる美しい景色と一緒に眺めていきたいと思います。</p>
次年度選考会 選抜方法	次の内容を含めた志望理由書を A4・2枚程度にまとめて提出してください。志望理由書をもとに面談をします。①自己紹介、②好きな地域や観光地とその理由、③このゼミを志望する理由、④研究したいテーマについて